

「人をつなぐスキルアップ研修会～体験活動の技法を用いて～」

自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成研修

1 趣 旨

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、体験活動の技法を用いて、対象者に応じて安全に指導ができるようにするとともに、指導者として人づくりに係る能力・資質を醸成する。

2 事業の概要

(1) 期 間

令和5年9月16日（土）～9月18日（月・祝）＜2泊3日＞

(2) 会 場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 後 援

島根県教育委員会

(4) 対 象

自然体験活動に興味がある方、自然体験活動指導者になりたい方（18歳以上）、
青少年教育に係る指導員やリーダー

(5) 参加者

16人（社会人13人、大学生3人） 募集15人程度（応募：16人）

(6) 講 師

ア 佐藤 しのぶ 氏（くにびき自然学校代表）（講義・演習①～⑨）

イ 堀江 清二 氏（まなび工房代表）（講義・演習①～⑨）

ウ 主任講師 国立三瓶青少年交流の家 西川 和志（ガイダンス①・②）

(7) 日程・研修内容

☆：法人ボランティア登録必須科目（希望者）

【1日目：9月16日（土）】

9：30～10：00	集合・受付
10：00～10：30	開講式・ガイダンス①(0.5h)
10：50～12：20	講義・演習①「自然体験活動の技術①」（1.5h） 昼食・休憩
13：30～17：00	講義・演習②「自然体験活動の技術②」（3.5h）
17：30～19：00	夕食・入浴・休憩
19：00～20：30	講義・演習③「青少年教育における体験活動」（1.5h）
21：00～22：15	情報交換会（自由参加）
22：30～	就寝

【2日目：9月17日（日）】

9：00～10：30	講義・演習④「自然体験活動の技術③」（1.5h）
10：30～12：00	講義・演習⑤「自然体験活動の指導」（1.5h）
12：00～13：00	昼食・休憩
13：00～17：00	講義・演習⑥「自然体験活動の安全管理」（4.0h）
17：00～19：00	休憩・夕食・入浴
19：00～20：30	講義・演習⑦「対象者理解」（1.5h）
21：00～22：00	☆「青少年教育施設におけるボランティア活動」
22：30～	就寝

【3日目：9月18日（月・祝）】

9：00～12：00	講義・演習⑧「自然体験活動の特質①」（3.0h）
12：00～13：00	昼食・休憩
13：00～15：00	講義・演習⑨「自然体験活動の特質②」（2.0h）
15：00～15：30	ガイダンス②（0.5h）
15：30～16：00	認定試験（0.5h）
16：10～16：45	事務手続き・閉講式（振り返り）
16：45～	解散

3 事業の特色

（1）プログラムデザインと企画のポイント

ア 今回の研修会では、研修会終了後の参加者の姿を次のようにイメージしてデザインをした。

（ア）プログラムのねらいを理解し、参加者及び担当するグループメンバーの支援を行うことができる。（プロセスとコンテンツを理解できる。）

（イ）参加者及び担当するグループのメンバーの安全に留意することができる。

（ウ）体験学習法について触れ、意識できるようになる。

（エ）環境保全に対して自分事として意識できるようになる。

イ 初日の午前・午後は、「指導者視点」ではなく「参加者視点」でアクティビティを行うことで、メンバー間のつながりを深めることにつながり、2泊3日とともに学び合う意識を育てることができるようデザインした。また、2日目以降、指導者視点に切り替えた際、実際の体験を通して学びを深めることにつながるようにした。

ウ 事業参加者で法人ボランティア登録を希望する者については、ボランティア共通カリキュラム修了と同等程度の理解と認定ができるようにするため、ボランティア養成カリキュラムの科目も選択で受講できるようにした。

エ 最終日の「自然体験活動の特質」では、今までの学びの総まとめの要素も含め、実際にプログラムの企画を行うようにした。各班が企画したプログラムを実際に行い、プログラムのねらい等について共有することで、指導者としての視点を意識できるようにした。

（2）運営のポイント

ア 活動ごとに振り返りを行い、知識の整理だけでなく参加者同士で学びを深める時間を取り入れた。

イ 3日目はグループワークの時間が主要となるため、お弁当による食事形式を用いて、グループごとに時間の融通が利くように計画した。

（3）広報のポイント

ア 公益財団法人ふるさと島根定住財団の定期刊行物への同封送付を活用し、島根県内のNPO団体（約280団体）、公民館（約300団体）、地域づくり団体（約120団体）、公益法人・公共施設（約40団体）に送付した。

4 参加者の声

- 「まさに十人十色という言葉が当てはまるメンバーたちで、でもどこか志のベクトルは同じ方向を向いている。そんな風を感じる、とても居心地の良い事業でした。」
- 「指導者として活動を企画する際に意識しないといけないことや指導者としての心構えを学べて本当に良かった。」
- 「自分の知らない、関わったことのない社会に身をおいている人たちと研修ができ、とても視野を広げるきっかけとなった。」

5 成果と課題

《成果》

- 研修会名を「自然体験活動指導者養成講座」ではなく、去年と同様に広報用として「人をつなぐスキルアップ研修会～体験活動の技法を用いて～」とした。理由として、研修会名から連想する

研修会内容と実際の研修内容との乖離がないよう、研修会タイトルを内容に合わせた。結果として、参加者の参加動機と内容に差異がなく、事業の質が向上し、中国5県全てから参加があり、幅広い職種の参加者を募ることができた。

- 本事業のねらいの一つにプロセスコンテンツを理解することを掲げていた。テスト結果や振り返りの実践場面では、プロセスに着目した振り返りの記述や発言ができており、参加者に対してプロセスコンテンツの理解を定着することができた。
- 研修会后、NEALインストラクターに向けた演習の相談を受けるだけでなく、当施設の法人ボランティアとしての活動の申込みを受けるなど、参加者自身の成長につながる意欲を向上させることができた。

《課題》

- 企画立案から発表までを4班全てで実施することとしたが、発表に時間を費やしてしまい、発表後の講師からのフィードバックや質疑応答に時間を費やせなかった。



(担当：企画指導専門職付主任 西川 和志)